

K O H O A I R A
広報あいら

第211号

町の人口動態
(前年同月との比較)

昭和57.12.31現在	昭和58.12.31現在
34,245人	人口……34,749人
16,239人	男性……16,442人
18,006人	女性……18,307人
11,252世帯	世帯数……11,736世帯



牟田山橋渡り初め

始良・加治木・溝辺の三町にまたがる「県民の森」への始良町側からの進入路・林道中斷線に架設工事を進めていた「牟田山橋」が完成。このほど竣工式が開催され、小野新さん(79)一家親子三代を先頭に、関係者ら約八十人による渡り初めが行われた。

架橋に要した費用は四十六六万円で、うち国・県からの補助が二千六百万円余。

昨年五月に着工、約半年の工期で完成した。

明けましておめでとございませす。

皆様方には、ご家族おそろいで、さわやかな新年をお迎えのことと存じ、心からお喜びを申し上げますとともに、さらに今年はよりよい年でありますようにお祈りを申し上げます。

私は昨年一月に町長就任以来、丸一年を大過なく過ごすことが出来ました。これもひとえに町民の皆様のおかげとご理解・ご協力と絶大なご支援のたまものと深く感謝いたしております。

昭和五十九年も一層のご指導・ごべんたつのほどをお願い申し上げます。

本年は、わが鹿児島県において「第三十五回全国植樹祭」が開催されその一環としてこの五月、本町北山地区に現在造成中の「県民の森」に天皇・皇后両陛下をお迎えして「お手まき行事」が開催されますことは、地元始良町民にとりましては、まことに感激の極みであります。まずは、町民各位と一致協力して、この催しを成功裏に終了させることを、私の年頭第一の誓いといたしたいと存じます。

さて、ご承知のとおり、わが始

新年のごあいさつ

年頭に当たり、謹んで新年のお喜びを申し上げます。

始良町は、地理的条件に恵まれ、町民各位のご努力とご協力によって県下の雄町として発展してまいりました。

現在、三万五千人に近い人口は、県下の八市をも抜いています。それなりに行政需要も激増し、反面、都市的要件の充足にはほど遠いものがあります。

町では、六十年代市制施行を目指し「活力のある地域社会づくり」を基本理念に、諸施策を推進してまいりましたが、議会は、議決機関として、定例会・臨時会において提出される議案を慎重に審議し、行政全般については、一般質問等で論議を尽くしながら、町発展と

良町は、鹿児島都市圏の一翼として人口急増を続けており、三万五千人突破も目前に迫っております。

県内で最も大きな町に発展したばかりでなく、県下十四市を含めた九十六市町村中七番目に位置する大きな町に成長しました。

これに伴い、他の類似都市にも見られる共通の悩み、都市計画の立後れ、公共施設や上下水道の不備、地域住民どうしのコミュニケーションの欠如——などの行財政的諸問題が山積している現状であり町当局としての「守備範囲」は増大する一方であります。

しかし、国の財政は、国債発行高が既に百兆円を超える異常に厳しい事態となり、行財政改革が国政至上の課題とされていることから、特に地方における行財政の見直しが必要であります。これは、高度成長期と異なり、住民のニーズを網羅する総合的政策を行うことが困難な時代であることを意味しています。

このような状況の中で、町勢の浮揚・発展を図るには、町民の皆様のご理解とご協力を得ることは、町民の皆様の真意をくみ、財源の確保とともに、予算の重点的・効率的な配分、さらには、政策の取捨選択を

町民の皆さんの福祉の向上に努力を傾けているところであります。

さて、今年五月には本県において、全国植樹祭が開催されますが、その一環として、わが町の「県民の森」で、天皇・皇后両陛下による「お手まき行事」が行われます。町にとっては、まことに意義深く、記念すべき年を迎えました。

「県民の森」は、県民の学習・訓練・レクリエーション・保健休養の場として、昭和五十五年度から県が整備を進めてきましたが、これを機にオープンすることは、その地の大半を占める町の議会として喜びとともに大きな期待を寄せているところであります。

町議会は、昨年五月に正副議長の選任を行って、新しい体制で出発以来、八カ月余で新春を迎えました。

議会には総務・文教・建設・経済の四常任委員会があり、各委員の割りふりに当たっては、適材適所を基本に社会的経験や経歴を尊重・重視して配置しました。各委員会では独自の研修、所管事務調査、陳情・請願等の審議などに真剣に取り組んでいるところであります。

また、議会には、正副議長・各委員長が六人で構成する議会運営委員会があり、議会運営、陳情・請願等の取扱いについて協議しておりますが、年四回発行の『議会

町長



的確になし、知恵と工夫と勇気をもって行財政の運営に取り組んでいくことが肝要であろうと思っております。

また、事務内容の総点検、経常経費の節減等、徹底した合理化を図っていくことも、大きな課題であると考えています。

わが始良町政の現状に思いをめぐらすとき「市制」移行問題は将来の夢として重要な課題でありますが、その実現には数多くの困難が立ちほだかっていることもまた事実であります。私は町民皆様の判断を仰ぎながら、昭和六十年代市制への大きな足がかりとなる年にさせたいと思っております。また、県民の衆目を集めている

だより』についても、このメンバーと議会事務局とで編集委員会をつくり、内容を検討の上、印刷・発行してまいります。

最近「議会だより」について、町民の皆様のご関心や理解も高まりつつあり、内容等についてご照会いただくこともあります。議会としても、より充実した紙面作成に委員一同努力を重ねてまいっている所存ですので、町民の皆様のご意見・ご要望をお寄せいただければ幸いです。

昨年九月の定例議会において、従前どおり三つの特別委員会を設置しました。

人口急増・都市化の進むなかで、水道事業は、町民の生活に欠かせない重要なものであります。

昭和六十五年の給水人口四万六千人を想定して計画された第三次拡張計画第一期工事は、昨年五月完成し、供用が開始されましたが、原水は不足がちで、不足分を補うため次々に井戸を掘っている現状です。まもなく河川表流水に給水源を求めなければならぬと思われませんが、漁業組合と隣接町のご理解・ご協力を願うことが、緊急課題であります。

また、都市化への対応として、下水道の整備があります。昭和五十六年五月、始良・加治木両町は、公共下水道連絡協議会を組織・発

「国分・単人テクノポリス構想」における本町の位置づけも今年の大きな課題であります。国分・単人地区と母都市・鹿児島市とをつなぐ「結節都市」としての役割の確立はこれまた急務であります。

さらに、長年の懸案である国道10号始良バイパスの整備促進にも全力を傾注しなければなりません。私は「地方自治」とは、その土地を生活基盤とする人たちのいわゆる、連帯感・の高揚によって住みよい町を築き上げることであると考えています。

行政は町民に近づいていなければならぬ——このような認識と理念を常に念頭に、諸問題に対処し「活力ある、豊かな暮らしと地域社会づくり」のために、またこの一年、私のすべての情熱を燃やす決意でありますので、何とぞ、ご援助のほどよろしくお願い申し上げます。

町民の皆様のご多幸を重ねてご祈念いたしまして、私の新年のあいさつといたします。

昭和五十九年正月

始良町長 西野 繁

足させ、具体的調査・研究を進めるということを話し合いました。

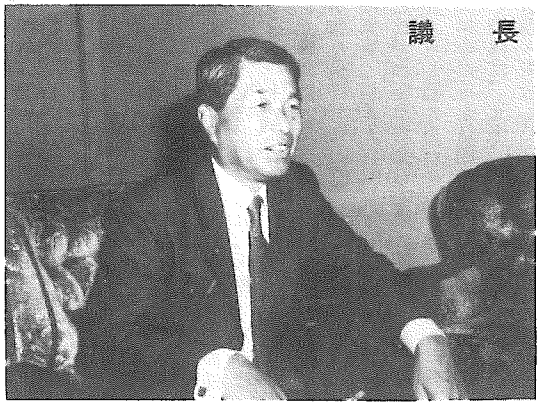
さらに、年々混雑渋滞の激しくなる国道10号線の問題もあります。昨年は、当時の建設大臣のご来町もあり、始良バイパス道の整備事業費は大幅に伸び、今後の努力によって明るい前途も期待されるようになりました。

これらの諸問題は一朝一夕に促進・解決出来るものではありませんが、議会としても、執行部ともども前向きに考え、調査・研究・推進を図ることとし、水資源対策調査特別委員会・下水道設置特別委員会・バイパス建設対策促進特別委員会を設置したのであります。以上、議会のあゆみ等について申し上げます。

町民の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

昭和五十九年正月

始良町議会議長 小川 正澄



議長

天神様がかえって来た!!

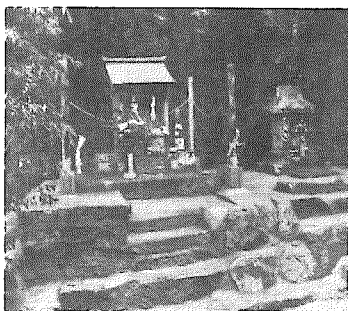
五年ぶりに北野自治会へ

「天神サアが戻ってきやった」と、北野自治会(小山重則会長、二十五戸)では、時ならぬ、天神様「北野天神」に沸いている。

「北野天神」のご神体を同自治会が譲り受け、この度完成したお堂に無事、迎え入れ、したもので「これでわが自治会も安康」と地区民どうし顔を合わせるたびに、同天神のことを話題にしている。

ご神体は、元来、同地の南蘭家が管理・保管していたもの。学業の神様ということで、一時、今は廃校となった成美小学校に祭られていたが、終戦後、米占領軍の指令で、再び南蘭家の手に管理がゆだねられていた。

ところが、昭和五十三年、南蘭家は都合で同地を離れ、いわゆる「まち」へ転居。この時点で同地ゆかりの「天神サア」は「地区外脱出」という形になってしまった。



北野天神

同自治会員らは「なじみの深い天神様をなんとか地元に戻してもらえないものか」と討議。現在は帖佐に住む南蘭輝雄さんに相談したところ、同氏も快く承諾、お堂建設へゴーサインが出た。

同自治会では、早速、小山会長を中心に寄付金募集活動を展開。全戸から予想をはるかに上回る多額の寄付金が寄せられた。

大きな暮くらいの大きさのお堂建設にかかった費用は、コンクリートなどの材料費と神事代のみ。自治会員ほとんど総出の手造りで、昨年十二月二十七日、無事完成にこぎつけたもので、場所は、自治公民館に隣接したところに以前から祭ってあった「馬頭(ばとう)観音」のすぐ横。自治会員の北野伊津子さんが土地を提供してくれた。

北野天神の由来は、詳細については判然としないが、伝聞によると、追手に追われた菅原道真公をこの地の人間がかくまい、追手に偽りの情報を通し、無事道真公をお救いしたところ、いたく感激された同公が、お礼に手持ちのやりを差し出された、というもの。

事実、ご神体は、鉄製の三つまたに分かれたやり先で、相当の年代を感じさせる。今年の初もうでは、遠路有名社

寺へ行くのを避け、ここでおかしわ手を打った地区民も多かったらしく、小山会長が暗いうちから、かがり火をたき、参拝者に酒をふるまったという。

「このところ、家庭内に災いがあるところが多く心配してしまっています。」

校区ごとに合同七草祝い

帖佐校区では稲荷神社で神事

町内ほとんどの小学校区で、婦人会の手による七草祝いが開催された。

帖佐校区婦人会(森妙子会長、会員二百人)主催の合同七草祝いは七日、稲荷神社で行われた。

同校区の十四自治会の婦人会役員がスタッフを組み、約二カ月準備を進めたもので、今年には五十八人が祝福を受けた。

神事に続き、本田幸子さん(三拾町自治会婦人会長)の繰り人形「犬のおまわりさん」で式は開始。森会長が「今日は皆さんが元気で大きくなるよう神様にお祈りする日。お父さんお母さんのいうことをよく聞き、事故に遭わないよう気をつけて」と子供たちに訴えた後、記念樹(カキ)と記念品(ケーク)が、西室田和史君(高樋)と小池ゆかりちゃん(三拾町)の両代表へ手渡された。

さらに、田中早苗町助役が祝辞。「今日まで子供さん方をりっぱに育てられたご父兄に敬意を表しま

たが、もうこれで大丈夫」とある中年婦人は話していた。小山会長は「北野天神は、われわれと切っても切れないもの。幼いころから生活の一部になっていた。これを機に(北野天神を)ますます大事にしたい」と語った。



日本の将来を背負う顔、顔

「と述べる」と、これを受け父兄を代表した永野保任さん(朝日ヶ丘)が「これからの日本を支えるこの子らの成長を温かく見守ってやって下さい。皆さんの今日のご好意に感謝します」とお礼の言葉を返した。

最後は記念撮影。ケークの包みはしっかりと手にしたまま、幼い日の貴重な思い出をフィルムに収めて、約一時間の式は終了した。森会長は「婦人会への加入拡大と組織の一層の強化がこれからの課題。式の運営も楽になり、より充実したものになること間違いなし」と張り切っている。

なお、同校区の七草祝いは平服での参加が原則。通知が徹底したためか、ほとんどが比較的リラックスした服装で参列した。

ただいま 編集 中

もうすぐ二月。

手元に、二月生まれと二月に亡くなった著名人の一覧表がある。

按捺・掲載するので、それらの人々の業績を、この機会に今一度考えてみてはいかがかな?

☆は生 ☆は亡

3日(金) ☆メンデルスゾーン

(独) 作曲家・一八〇九、二葉亭四迷・小説家・一八六四 ☆

福沢諭吉・思想家・慶応義塾の創始者・一九〇一

5日(日) ☆ベープ・ルース(米)

野球選手・一八九五

10日(金) ☆レントゲン(独) X線

発見の科学者・一九二三

13日(月) ☆ワグナー(独) 作曲家

一八八三

14日(火) ☆山本周五郎・小説家・

一九六七

16日(水) ☆大隈重信・政治家・

一八二八

17日(木) ☆島崎藤村・小説家・

一八七二 ☆ハイネ(独) 詩人・

一八五六

20日(月) ☆志賀直哉・小説家・

一八八三

22日(水) ☆シヨパン(ポーランド)

作曲家・一八一〇

25日(土) ☆斎藤茂吉・歌人・一九

五三